

## く子どもたちの生き生きとした笑顔のために

### 力をあわせ、学童保育をより良いものにしていきましょう>

福岡県学童保育連絡協議会 会長 吉岡美保

新年あけましておめでとうございます

長かった新型コロナウイルスによる感染防止対策により、『学童保育が社会機能を支えるための重要性』が明らかになりました。学童保育は、子どもがのびのびと主体的に自らの生活を作り出す場であり、これを保障するには、施設や外遊びの場所を含め、安全で安心して過ごせる環境を確保する必要があります。それには専門的な知識を有した専任・常勤の支援員が常時複数人体制で配置されることが不可欠であり、子ども・保護者との安定的なかかわりを継続するために、支援員の長期的で安定した雇用を確保することが必要です。

しかし、今なお、学童保育の実態は自治体の実施条件や学童保育現場の保育内容はさまざまであり、多くの課題（学童保育の大規模化、待機児童、条件整備の遅れ、指導員の低賃金を含む厳しい労働環境、行政や地域の理解の不十分さ、予算の少なさ、営利を目的として民間企業の参入の増加など）があります。併せて、子どもを取り巻く社会状況の中での事件や事故、コロナ禍によるストレスや子どもの人権問題も起こっています。これでは子どもたちの最善の利益は守れず学童保育の質の低下が懸念されると共に、子育て支援全般を担っている実施主体である市町村の責任が問われる事態と学童保育の制度が様々な脆弱さと課題を抱えています。

2023年春「こども家庭庁」が発足し子ども関連の施策や情勢が大きな変化を見せています。この動きは注視しながら学童保育施策の充実に向けた取り組みの輪を広げ共に活動していくことが大切です。

福岡県連協は、1977年に『子どもたちに豊かな放課後生活を、そして働く親が安心して働くことができる学童保育を』との願いから発足し、以来活動を続けています。全国学童保育連絡協議会(全国連)や九州各県連協、学童保育に関わる関係機関、そして保護者・支援員の皆様と協力しあい、各種研修会開催や、县市町村との懇談や要望を行い学童保育施策の拡充と量と質の向上に向けて活動してきました。

今年も皆様と手を取り合い協力しあい、『子どもたちの生き生きとした笑顔』の為に活動し、学び合い、県連協の活動を活発に行いたいと思います。

**2月25日第41回福岡県学童保育研究集会 (HP掲載)** たくさんの方々と交流し学び合うことを願います。ご参加お待ちしております。

併せて、来年**2025 (令和7年)**年には『**第60回全国学童保育研究集会**』を福岡県で開催します。日本中の学童保育関係者が集い学び合うことを願い、準備を進めています。どうぞお楽しみに。

皆様の今後のご活躍を願い、年頭の挨拶とさせていただきます。